

# 新病院基本構想のポイント

## 1. 現状認識と解決すべき課題

### 小児・周産期医療を取り巻く医療動向

- ・年少人口の推移
- ・出産の状況
- ・医療機関の供給状況
- ・高度化する小児医療
- ・小児救急患者の増加
- ・出生前診断の進歩
- ・周産期病床の不足

### 医療従事者を取り巻く環境

- ・専門医の減少
- ・医療資源の分散化
- ・産科医の高齢化
- ・女性スタッフの働きやすい環境づくり

### 医療経営を取り巻く現状

- ・本市の財政状況
- ・公立病院改革ガイドライン

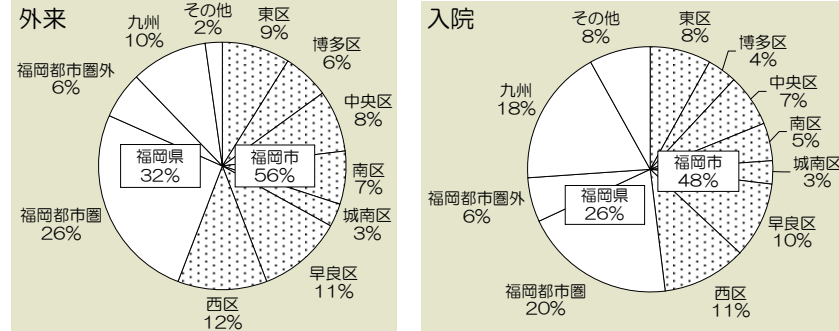
### こども病院・感染症センターの現状と課題

- 小児医療面
  - ・集中治療室と一般病床の適正配置等
- 経営面
  - ・経営効率化等
- 施設面
  - ・老朽化・狭隘化
  - ・駐車場不足等

### 患者の動向

高度医療を提供する小児専門病院として、広範囲から患者を受け入れる医療機関となっています。患者の内、福岡市民は2分の1程度であり、残りの2分の1は市外居住者が占めており、福岡市域を越えて九州、さらには全国から来院しています。

◎居住地別外来・入院患者構成比 (H18)



## 2. 新病院の基本的な考え方

### 1) 基本理念

すべての子ども達やご家族の健康と明るい未来を願い、時代にふさわしい病院をめざします。

### 2) 全体像

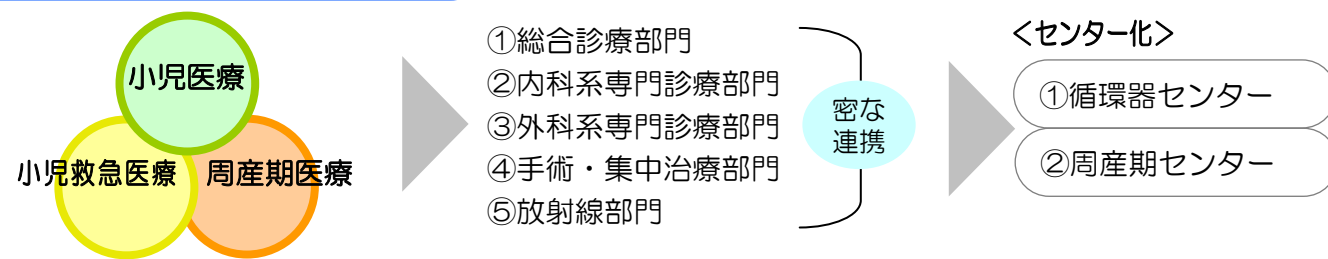
#### ① これまでの実績を継承するとともにさらなる充実を図ります。

現こども病院がこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）のさらなる充実を図るとともに、産科を新設し周産期医療を担います。

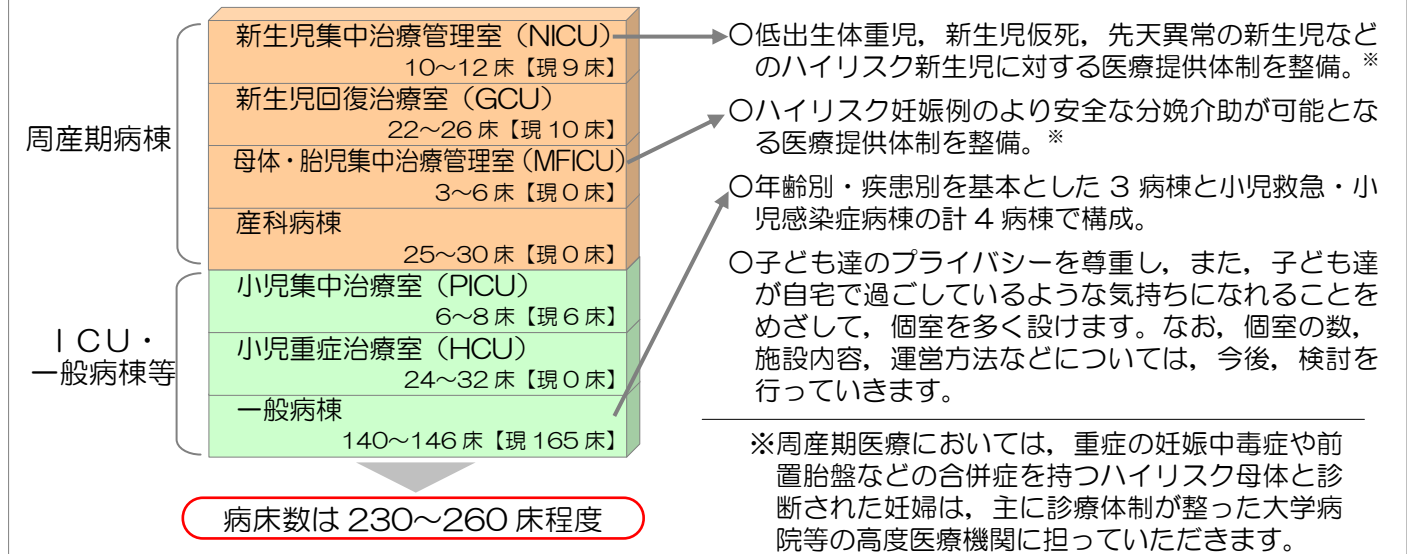
#### ② 相互補完的な医療連携をめざします。

急性期の医療を担い、不足する医療については近隣及び各地の医療機関との機能分担と連携を進めるとともに、医療機関相互のネットワークの構築や情報提供機能の充実を図ります。

### 3) 診療部門



## 4) 病棟構成及び病床数



## 5) 医療運営計画の基本的な方向性

- ①説明責任と透明性の向上
- ②医療安全管理の充実
- ③人材育成の取り組み
- ④アジアへの貢献
- ⑤こどもの視点に立った療養環境づくり
- ⑥相談業務・広報業務の充実
- ⑦市民をはじめ多くの人に支えられる病院づくり

## 6) 経営計画の基本的な方向性

- ①戦略的経営の推進
- ②人材確保の取り組み
- ③地方独立行政法人への移行
- ④PFI方式の採用
- ⑤国、県等の支援

## 7) 整備計画の基本的な方向性

- ①高度な医療を的確に提供する空間づくり
- ②子どもの特性に合わせた空間づくり
- ③高い安全性を有する施設づくり
- ④将来の環境変化にも対応可能な整備

## 3. 新病院事業の概要

### 1) 建物の規模等

- ① 建物規模：26,000㎡
- ② 敷地面積：35,000㎡
- ③ 整備場所：福岡市東区香椎照葉五丁目（アイランドシティ中央公園西側）

### 2) 事業収支見込み

①整備費用（主な初期投資費用） 単位は億円、税込み

項目	金額	備考
用地取得費	約 47	13.5万円/㎡（平米当たり土地単価）×35,000㎡（敷地面積）
建設費	約 100	38.6万円/㎡（平米当たり建設単価）×26,000㎡（延べ床面積）
外構工事費	約 3	1万円/㎡（平米当たり工事単価）×25,000㎡（外構面積）
医療機器・備品費	約 36	医療機器、備品、情報システム（現病院からの持ち込み医療機器は除く）

②試算の結果（30年平均） 単位は億円、税込み

項目	金額	備考
病院事業収益(A)	約 84	入院収益、外来収益等
病院事業費用(B)	約 91	人件費、材料費、その他経費（減価償却費を除く）
企業債元利償還額等(C)	約 10	整備費用及び医療機器購入等に係る元利償還金等
差引(A-(B+C))	約 17	年間の現金収支差

基本構想では、現時点で想定される前提条件を基に収支試算を行っています。今後、事業の詳細を詰める中で、その段階に応じた試算を行っていきます。

### 3) 整備スケジュール

開院は25年度中を予定。

### 4) 付帯施設

ファミリーハウス、駐車場（400~450台）等